

症状マネジメント記録用紙 NO.1 (記入例)

月 日

患者氏名	A 氏	年齢	56才	性別	<input checked="" type="radio"/> 男・女
病名	大腸がんⅢ期				
<p>症状の定義：<u>看護活動その1：症状の定義を明らかにする。</u> ガイドブックP.5の定義を記入し、定義を共有する。</p>					
<p>症状のメカニズムと出現形態：</p> <p style="text-align: center;"><u>看護活動その2：症状のメカニズムと出現形態を理解する。</u></p> <p style="text-align: center;">病気のステージや経過、治療内容についても記入する。 図を用いてもよい</p> <p>[例]</p> <p>A氏はざ瘡様皮疹が生じており、これは①EGFR阻害薬により皮膚の活性化EGFRが著しく減少し、ケラチノサイトの増殖・移動が停止するとともにアポトーシスが誘導され、一方でこれらの細胞がケモカインを発現し、炎症細胞が動員されることで生じている。さらに②ざ瘡様皮疹により痛覚受容器が刺激され、痛みも生じている。</p> <p>使用している薬剤</p> <p>①ステロイド軟こう ②ミノマイシン</p> <p>治療内容</p> <p>①化学療法[mFOLFOX6+パニツムマブ (Pmab) 療法]</p>					

症状マネジメント記録用紙 NO. 2 (記入例)

月 日

患者氏名： _____

【体験】	【方略】
<p>看護活動その3： 患者の体験（認知、反応、評価）と意味を理解する</p> <p>患者の言葉、看護師が観察したことを記入する</p> <p>【例】 月/日</p> <ul style="list-style-type: none"> 皮膚症状の部位 皮膚症状による痛みの程度（スケールを用いてもよい） どんな症状か いつ頃から症状が現れたか 症状が出たらどのくらい長く続くか どのようなときに症状が強くなるか どうすると症状が楽になるか 皮膚症状の原因をどのように考えているか、どのように説明を受けたか 皮膚症状のためにできなくなること、困ることはあるか（食事、睡眠、清潔、心理的变化など）症状があるときの患者の表情、動作、血液データなどの観察項目 <p>など</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>分析</p> <p>認知：表現の多さ、言葉の豊かさ、内容の種類</p> <p>評価：症状と原因（疾患・生活行動など）を結びつけて考えているか、症状の強度・頻度・持続時間を評価しているか、症状の増強・軽減因子を評価しているか、薬剤の効果を評価しているか</p> <p>反応：症状の影響が生活行動に現れているか、症状によって情緒的な変化が起きているか、両者のバランス</p> <p>意味：症状は患者にとって何を意味しているか</p> </div>	<p>看護活動その4： 症状マネジメントの方略を明らかにする</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>患者：</p> <p>分析：自分が症状マネジメントの主役だと思っているか、症状コントロールの可能性をどのように考えているか（症状はとれるものと考えているか）</p> <p>積極的か、消極的か、目標を持っているか、これまでの体験と関連しているか、症状の機序に矛盾しない方法であるか</p> </div> <p>家族：</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>分析：患者の症状マネジメントに積極的か消極的か、症状マネジメントの目標をどのように考えているか</p> </div> <p>医師：</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>分析：医師の症状に対する評価</p> <p>患者の症状をどのように捉えているか、目標をどこにしているか、積極的にマネジメントしようとしているか、効果的な方法をとっているか（医師の知識、実行力）</p> </div> <p>看護師：</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>分析：看護師の症状に対する評価</p> <p>患者の症状をどのように捉えているか、目標をどこにしているか、症状に関するディスカッションがされているか、積極的にマネジメントしようとしているか、効果的な方法をとっているか</p> </div> <p>その他：薬剤師、保健師などの方略 ヘルスケアシステム</p>
<p align="center">【現在の状態】</p> <p>看護活動その5：体験と方略の結果を明らかにし、セルフケア能力の状態でご該当するレベルを判断する</p> <p>症状の状態：症状はコントロールされているか（スケールを用いてもよい）</p> <p>機能の状態（PS）：日常生活行動、臓器の機能とその統合性（栄養、脳神経、呼吸、循環機能など）</p> <p>QOLの状態：日常性活の障害、自己価値観の低下、無力感などの情緒の状態</p> <p>セルフケアレベルの状態： レベルⅠ、 レベルⅡ、 レベルⅢ、 レベルⅣ</p>	

症状マネジメント記録用紙 NO. 3 (記入例)

月 日

患者氏名：

【看護師の行う方略を導き出すためのアセスメント】	
<ul style="list-style-type: none"> 潜在的なセルフケア能力も含めて、患者の能力を査定する 患者の現在のセルフケアレベル（レベルⅠ、レベルⅡ、レベルⅢ、レベルⅣ） 患者が習得すべき必要な知識、必要な技術、必要な看護サポートの方針を立てる 	
看護師の行う方略（計画）	実施と患者の反応
看護活動その6：看護師が提供する知識・技術・サポートの内容を決定し実施する	
<p>（ ）さんが習得することが必要な知識</p> <p>（ ）さんに以下の必要な知識を提供する</p> <p>【例】</p> <p>症状は患者が主体となってマネジメントしていくものであること（患者の役割、医療者の役割）</p> <p>症状をもっと軽減できる可能性があること</p> <p>症状を我慢することによって生じる弊害</p> <p>症状の機序</p> <p>薬について（効果、副作用、副作用のコントロール、飲み方、増量が可能）</p>	<p>実際に実施したことと患者の反応を（経時的に）記入する</p> <p>【例】</p> <p>月/日</p> <p>特徴的な皮膚症状や症状が現れやすい時期について、パンフレットの図を用いて説明した</p>
<p>（ ）さんが習得することが必要な技術</p> <p>（ ）さんに以下の必要な技術を習得してもらう</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 皮膚を観察する技術 皮膚の変化に気付く技術 症状を医療者に表現する技術。医師に相談する技術。 援助が必要ときに頼む技術。 スキンケアの方法（保湿剤の選び方、靴の選び方、入浴の方法など） 生活の中に取り入れる工夫。 効果的でない方法、誤った方法の修正。患者が実施しやすいように修正する。 	<p>実際に実施したことと患者の反応を（経時的に）記入する</p> <p>【例】</p> <p>月/日 ・背中に痒みがあったが見えない部分なので、そのまま放置していた。しかし入浴時に我慢できず、ナイロンタオルで擦ってしまった。鏡を用いた背部の観察方法を一緒に行った。乾燥が強いため、背部に軟膏を塗る方法や、必要時は家族に助けをもらうことを提案した</p> <p>月/日 →「入浴の時に鏡を使って見ている。家族にも手伝ってもらって背中に軟こうを塗っている。痒みも減った。」と背部の皮膚も観察でき、家族に依頼できるようになった。</p>
<p>（ ）さんに必要な看護サポート</p> <p>（ ）さんに以下の必要なサポートを提供する</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇〇さんの症状をとりたいと思っていることを伝える。そのためどのようなことをしているのかを伝える。一緒に対処していく姿勢を示す。 〇〇さんの症状がとれるとうれしいことを伝える。 表現してくれてよくわかった、表現してくれることで薬剤の評価がやりやすくなったということを伝える。 患者と医療者の協力で効果が出たことを伝える。 表現できていることを評価する。 患者にマネジメントの能力があることを伝える。 自分なりにコントロールしようとしていることを評価する。 とっている方略が理にかなっているということを評価する。 安楽への援助、日常生活の援助 症状のアセスメント 気持ちを聴きたいと思っていることを伝える。 	<p>実際に実施したことと患者の反応を（経時的に）記入する</p> <p>【例】</p> <p>月/日 ・自分なりに工夫した方略がとれており、メカニズムから考えても効果的な方略であることを伝えた。</p> <p>→「あれでいいの不安だった。そう言ってもらえると安心した。」</p>
【改善された結果】	
<p>症状の変化：</p> <p>機能の変化（PS）：</p> <p>QOLの変化：</p> <p>セルフケアレベルの変化：</p>	<p>看護活動その7：活動による効果を測定する</p>